

みんなで作る園の未来!

保育ナビ

2025
SEPTEMBER
〈6/12〉

9

特集

子どもと地域を守るための 災害時対応

~2つの視点から園にできることを考える

間くと視野が広がる
編集委員からのメッセージ
古賀松香

若手育成のヒントに!
保育者養成校の今

予防のために知っておきたい
事故につながる12のポイント
全体最適思考の欠如

2025年度は、保育と子どものおもしろさを伝え、
ワクワクを広げる内容を読者にお届けします。

『保育ナビ』の使い方

読む

まずは、自分で読みます。回覧したりして、園内でも各自で読みます。



語り合う

読んだ記事をもとに、園内で「雑談」をしたり「研修」をしたりしてみましょう。



保育の質の向上へ

読み、話すことで、園内で学び合い・語り合いが生まれ、保育の質が高まります。



【今月のおすすめ】

園長・主任・学年リーダーにおすすめのコーナーを選んでマークを表示しています。

園長 主任 学年リーダー

マークのついているコーナーでは、園内で話し合うためのお題・ワークを用意しています。職員会議や園内研修などでご活用ください。

マークのついているコーナーではワークシート等のダウンロードができます。右の二次元コードからアクセスしてください。



マークのついているコーナーでは、関連動画があります。

『保育ナビ』は、編集委員がサポートしています。

秋田喜代美（学習院大学）

浅井幸子（東京大学）

大方美香（大阪総合保育大学）

大豆生田啓友（玉川大学）

北野幸子（神戸大学大学院）

古賀松香（京都教育大学）

境 愛一郎（共立女子大学）

汐見稔幸（東京大学名誉教授）

砂上史子（千葉大学）

松井剛太（香川大学）

無藤 隆（白梅学園大学名誉教授）

矢藤誠慈郎（和洋女子大学）

敬称略 50音順

編集委員から読者の皆さんへ応援メッセージを月替わりで配信します。詳しくはP.32へ！

『保育ナビ』が伝えたいこと

起きてからでは遅い！ 命を守るために今考えよう

防災月間の9月になりました。皆さんの園でも安全計画の策定だけでなく、研修や訓練を定期的実施し、周到に準備されていることでしょうか。しかしそうであっても、実際に災害に直面した時に、想定通りに行動できるかどうか心配する声も聞こえます。有事の被害を最小限に抑え、子どもや地域を守るために、くり返し過去の例から学び、より自信がもてる災害時対応につなげていきましょう。

——『保育ナビ』編集部

巻頭

フレーベルのことは 汐見稔幸 小西貴士

特集

子どもと地域を守るための 災害時対応

～2つの視点から園にできることを考える…4

秋田喜代美



園紹介

園のかたち2025…16

ながった幼稚園（神奈川県横浜市）

注目テーマ

子どもと日常の保育の見方が変わる
事例から学ぶ
インクルーシブな保育…20

若月芳浩

保育実践から読み解く
「安心と挑戦の循環」…26

馬場耕一郎

園の未来を握るリスペクト型マネジメント
みんながワクワクする
多機能化と地域共創…28

大豆生田啓友

小学1年生の授業を拝見！
～学びを通してつながりを理解する…30

無藤 隆 片岡麻梨子

聞くと視野が広がる
編集委員からのメッセージ…32

古賀松香

保育内容

3・4・5歳児
遊びが育つ保育
保育者の役割…34

河邊貴子

0・1・2歳児
保育者のセンス・オブ・ワンダー
子どもの心を豊かに育むために…36

井桁容子

保育が変わると計画が変わる
やってみよう！
子どもの姿ベースの
指導計画…38

大豆生田啓友 佐伯絵美

エコロジカルな園庭へ
再生のための実践ゼミ…42

小西貴士 ポール・スミザー

保育環境 知らないで損！
遊びが10倍豊かになる
砂場づくり…46

笠間浩幸

Information…49

人材育成

若手育成のヒントに！
保育者養成校の今…50

那須信樹 野中千都

職員みんなで考える
保護者支援10のポイント…54

浅井拓久也

国の動き

国の動きを読む！
研究者の目2025…56

大方美香

園経営

持続可能な未来を切り拓く
変化する時代の経営戦略…58

桑戸真二 柳 修二

予防のために知っておきたい
事故につながる
12のポイント…60

脇 貴志

エッセイ

保育ナビエッセイ
保育とわたし…62

刑部育子

子どもと地域を 守るための 災害時対応

〜2つの視点から園にできることを考える

園において、災害時対応は大きな課題です。

有事の被害を最小限に抑えるためには、どうしたら？

能登半島地震の被災者でありながら

自ら支援に動き出した平和こども園の取り組みと

多くの子どもとの緊急支援に携わってきた

セーブ・ザ・チルドレンの支援例から

園ができることについて考えます。

Contents

Part1 対談

地域共生社会における
災害時の園の役割 …P.5

日吉輝幸×秋田喜代美

Part2

災害時における
園での子どもの心のケア …P.9

赤坂美幸

オピニオン

セーブ・ザ・チルドレンの
話を受けて …P.14

秋田喜代美
災害大国日本で各園が
できることを考えよう

子どもと保育者等職員の生命の保障は、どのような時においても園にとって最優先事項です。災害時対応は、災害が起きてから対応するだけでなく、日々の保育の中で何をしておけばよいのかを考え、地域の方々とつながり合っていくことが大事です。また事前に、災害時の子どもや保護者の心理を学んでおくことで、行動が変わります。

本特集を、自園で何
をしておこうか、職員
みんなで語り合う契機
にしてください。

監修 秋田喜代美

イラスト/AKIYO
取材協力/こんべいごらなぼーと





対談

地域共生社会における災害時の園の役割

能登半島地震での取り組みから学ぶ

災害時、園としてできることは何でしょうか。2024年1月の能登半島地震で、自園を避難所として開放した平和こども園園長・日吉輝幸先生に話を聞きました。

幼保連携型認定こども園平和こども園 園長

日吉輝幸先生



プロフィール●日吉輝幸（ひよし てるゆき）／1982年に社会福祉法人六水福祉会に入職後、保育士試験に合格。日本保育協会全国青年部長、石川県保育推進連盟会長、全国認定こども園協会石川県支部長など保育所・認定こども園団体の役職を歴任。2022年に防災士資格取得

学習院大学／東京大学名誉教授

秋田喜代美先生



プロフィール●秋田喜代美（あきた きよみ）／学習院大学文学部教授。東京大学名誉教授。こども家庭庁こども家庭審議会会長、こども誰でも通園制度の制度化、本格実施に向けた検討会座長、『研修アドバイザーと共に創る新しい園内研修のかたち』（フレーベル館）など著書多数

地域とのかかわりが災害時の基盤に

秋田喜代美先生（以下、秋田）：日吉先生は被災され、かつ自園を避難所として地域に開放されました。今日はそのご経験から、地域共生社会における園の役割についてお話しただきたいと思います。

日吉輝幸先生（以下、日吉）：私たちが園がある能登地方は、災害以前から人口減少が続いている地域で、子どもも少ないし、保育者確保もままならない状況でした。

そのなかで一定以上の保育の質を確保するためにはどうしたらいいか

学ぶうち、子どもとのかかわり、保護者とのかかわりに加え、地域社会とのかかわりが大切だと気づきました。そんな折2016年の社会福祉法改正で、社会福祉法人に地域社会への公益的取組が義務付けられたのです。

自園で何ができるか考え、穴水町社会福祉協議会と協議し他法人の協力を得て、一人暮らしの高齢者に対する配食サービスをやらせていただく、と。せっかくなので、高齢者の方に園に来ていただいて園児と交流してもらうことにしました。それが非常に喜ばれましたね。様々な工夫しながら続けるうち、みんなで地域社会をつくりあげていくことの

エコロジカルな園庭へ 再生のための実践ゼミ

第8回 植物を植える土（ベッド）をつくろう

環境教育やESD（持続可能な地球の創り手を育むための教育）の実践者であり森の案内人の小西貴士さんがナビゲーターとなり、これからの時代の園庭環境のあり方を考えます。園庭づくりの実践については、ランドスケープデザイナーのポール・スミザーさんと共に具体的なアイデアを紹介します。



企画・執筆 小西貴士
(森の案内人・くうたら村共同代表)



ポール・スミザー
(ランドスケープデザイナー)

逆転の発想で土（ベッド）をつくろう

皆さんの園では植物を植える土をどうしていますか？ 買うことは土を用立てる1つの方法で便利ですが、買わなくても土を用立てることはできます。買わないほうが、若い人も生態系のことを理解できたり、園と地域のつながりが強まったり、庭の持続可能性が高まったり、もちろん出費も抑えられたりと、良いことがたくさんあります。

「土をつくる」というと、コンポスター（堆肥場）のような囲いの中に有機物を積んで土をつくり、その土を花壇やプランターに入れて使うというやり方を思い浮かべる人が多いかもしれません。でも、ここで紹介する方法は、それと似ているけれど違う方法です。花壇にする予定の場所に有機物を積んでゆく、つまり、先の例とは逆転の発想で、コンポスト（堆肥）の中に植栽しようという方法なのです。

ですから、今回は「土をつくろう」というテーマですが、「植物を植えるベッドをつくろう」と言い換えたほうが正確です。このやり方は、若い人の育ちにとっても大切です。土は買うものだという世界観を固定するのではなく、自分たちが働くことで植物のベッド（土）が作られるんだという世界観や有能感を育むことにつながるからです。

考えるヒント！

[理解を深めるためのダウンロード資料はこちら→](#)



イラスト/吉野由利子

ベッド(土)づくりの前に、地盤改良作業を



まずは、花壇にしたい場所がどんな状態か調べよう。掘ることができるような地面なら、30cm以上掘って断面を見ると、そこがどのような場所かがよくわかる。

それぞれの状態に応じて、ベッド(土)づくりの下準備をしよう。

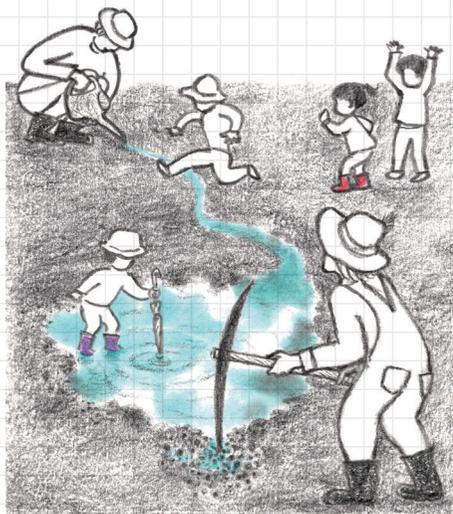
A 砂や細かな砂利(水はけが良い)

機械で転圧されたり、人に踏み固められたりして硬すぎる場合は、10～16mmの鉄筋をハンマーで地面に打ち込んで前後左右に揺らして、花壇になる下の地盤をほぐしておく。地盤にヒビを入れるイメージで。



B 粘土質や硬くなった土(水はけが悪い)

Aのように地盤をほぐしておく。土の場合は、ツルハシや剣スコップ、(作業工具の)長いドライバーなど、その地盤に合わせてほぐせるような道具をうまく使って作業を進める。作業前よりも水はけが格段に良くなるのが目安。



C 草や芝生に覆われている

AやBのように地盤をほぐしておく。生えている草を刈って、その場に置く。刈り草の上に、濡らした段ボールを隙間なく重ねて敷く。段ボールを敷くのは、これまで生えていた芝や草と縁を切るため。しっかりと隙間なく敷くこと。



D レンガやタイルやコンクリート敷き

今回はこの場合のやり方を扱いません。いずれ必ずこの場合のやり方を取り上げたいと思います。悪しからず。

ベッド(土)のつくり方の手順



- ①花壇にしたい場所を決めて、前ページの地盤をほぐしたり、生えている草と縁を切る作業を面倒くさがらずにやる。
- ②その上に、丸太や太い枝を敷き詰め重ねる。隙間に落ち葉や細かい枝を詰めていく。これらはゆっくりと分解されていき、ミネラルなどの養分が少しずつ長期間かけて出てくる。
- ③その上に、落ち葉、刈り草、野菜くず、おがくず、ウッドチップ、藁、粃殻、新聞紙などの植物性有機物いろいろを重ねる。風で簡単に飛んでゆかないように、水を掛けて踏んだり、互いの素材を絡ませる。
- ④積み重ねの一番上には土を乗せる。黒土、山砂、真砂土など、園の周辺で入手しやすい土でOK。この表面の土厚が

10cm以上あれば、9cmポット入りの苗が植栽できる。

植栽後も土の表面に③と同様に植物性有機物を重ねていく。(これについては、今後庭の手入れについてテーマを組む際に詳しく取り上げます。)

*花壇の縁は崩れないように、そして、見た目にも良いように、丸太や石などを設置して枠をつくる。土を傾斜をつけて盛り、土留にしてもよい。



ハンバーガーをイメージして レイヤリングしてみよう(積み重ねよう)



ホームセンターにたくさんの種類の土が並んでいます。培養土といっても野菜用、果樹用、バラ用、クレマチス用……どれを買ったらよいのか迷ってしまいますね。でも実は、どれも買う必要はないのです!

大自然を思い浮かべてみましょう。火山の噴火で生まれた島に波が流木を運んでくる。流木についていた草の種が発芽する。草を食べる鳥がやって来る。鳥はフンを落とし、種を落とし、いずれはその体も地面に。植物たちは二酸化炭素を吸い、光を浴び、繁殖しては枯れ、ミミズや土壌生物たちが分解していく。大量の有機物が積み重なるそのくり返しで、豊かな土壌がつくれ、最終的には森ができることでしょう。

自然に委ねると100年で1cmの土ができると言われていています。けれど、人間が動けば、その時間は驚くほど短縮されます。そう、私たちは豊かな土壌を簡単にすることができるのです。園庭においしいハンバーガーの島をつくるつもりで、手に入るいろいろな有機物、ゴミと思いついでいた落ち葉や剪定枝などをどんどん重ねてみましょう。土壌生物たちはご馳走に大喜び! 周りには様々な自然からの贈り物があって、気付けば、身近な世界がもっと豊かに見えてくることでしょう。

実際のゼミの現場から見えてきたこと



ぐうたら村（山梨県北杜市）で開かれている保育者のためのナチュラルガーデンゼミから見えてきたことを、ここでもシェアしたいと思います。

つついやっちゃん、広く浅く……

実習作業の際は有機物をしっかり分厚く積んでいたのに、園でやるとなると有機物を広く浅く積んでしまう。このような事例が多数ありました。薄くだと分解された有機物はカサが減るので、さらに薄くなってしまいます。そうすると、雨で土が流れ出たり、風で飛ばされたり影響を受けやすくなりますし、植物が必要とする養分も少なくなります。丸太を敷き詰めた上に、ハンバーガー工法でさらに 25cm 有機物を積み上げて、さらに 15cm 厚で土を被せるくらいの勢いで積み重ねると、ゆくゆくは豊かな花壇・生態系になってゆきます。広く浅くではなく、狭くてもしっかり分厚く！ 積み重ねてください。

探してみよう、うちの地域の有機物

ここまで見てきたように、豊かな園庭の生態系づくりの基となるのは、その地域にある有機物です。ゼミに参加されている各園でも、あの手この手でその地域や園ならではの有機物を探し出して積み重ねられていました。稲藁、麦藁、落ち葉、剪定枝、キノコの廃菌床、出荷作業後に出る野菜屑、果物の加工後の屑、ウッドチップ、製材所から出る樹皮、粃殻、米糠、カンナ屑、竹などなど。高速道路の法面の草刈り後の草を園にパッカー車で持ってきてもらったり、公園や神社の清掃時に大きな袋で枝や落ち葉をもらってきたり。子どもたちと地域の方との温かな交流の様子もうかがえました。都市部でも案外いろいろと手に入れられるものです。チャレンジしてみてください。

どうしても、土を買って花壇をつくる時は……

様々な理由で有機物が集まらず、土を買うのであれば「バーク堆肥」や「完熟腐葉土」がオススメです。バーク（樹皮）や落ち葉や細枝などを発酵させてつくってあるこれらのものは、粒が粗いものから細かなものまで様々な大きさのものが入っています。そのため、敷いてからもゆっくりと分解され、粒の大きなものは長い時間かけて分解されるため、長期間にわたり植物が必要な養分が供給されることとなります。また、粒が揃わないため隙間が生まれやすいことも特徴です。隙間があると、微生物やミズズなどの土壌生物の棲家になりますし、根を伸ばすにも良い条件です。また、隙間は水を溜めておくのにも適しています。そのため、これらを花壇の表面に敷くことで、保水性が高まり、菌や微生物を活気づけ、下のほうに入れてある有機物の分解を促すことにもつながります。

2025年度の予定

6月号 土について知ろう
9月号 園で土をつくって育もう

12月号 自分たちで花壇をつくらう
3月号 植える前に、植物について知ろう

『保育ナビ』編集部からのお知らせ

公式サイトや SNS で保育最新情報をチェック!

『保育ナビ』は公式サイト や SNS でも様々な情報を配信しています。
より早く、より詳しい情報のためにぜひともチェックしてみてください。

公式サイト



YouTube



Facebook



Instagram



保育ナビ

保育ナビブック

子どもと一緒に作る保育へ 10のステップでできる 子どもたちのミーティング



執筆 青山誠 (社会福祉法人東香会 保育統括)



著/青山誠 (社会福祉法人東香会) 定価 2,970 円 (本体 2,700 円 + 税 10%) 判型: 26×18cm 96 ページ ISBN: 978-4-577-81571-7 商品コード: 108-34

子どもたちのミーティング (サークルタイム) が これ1冊でわかります

現場の先生方の声から生まれた本 10のステップに沿って 「解説」「事例」「振り返り」「Q&A」で構成

Contents

- 1章 子どもたちとつくるミーティングにしたいためには
2章 ミーティングのステップ10
3章 つまづきやすいポイント解説!
4章 ミーティング、こんなにも面白い!

子どもたちとの対話を積み重ねた保育者たちによって書かれ、複数の園の保育者たちによる事例検討をもとにして構成した、保育のための技法的な実践本。ハウツーではなく、保育者たちが実践の中で掴み取った「わざ(技)」「知恵」が満載。「子どもの声に聴き入る」という保育の基本をさらに深めたい皆さんにお勧めします!

※より良い内容とするために表紙と内容は変更になることがあります

